

## 没後40年 鴨居玲展 -見えないものを描く-



鴨居玲(1982年 私)  
-「没後40年 鴨居玲展」より-

- 特別展示 仏教の絵画／優品選 -春と夏の美術- 【古美術】
- 近代の日本画 -橋本雅邦・山元春挙・川端玉章- / 橋本雅邦の襖絵【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 花の器【近現代工芸】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics 没後40年 鴨居玲展 第2弾 写真の中の鴨居玲
- 3月の行事予定
- 学芸室こぼれ話
- 友の会 会員募集

## 古美術(第2展示室)

# 特別展示 仏教の絵画

2月7日(土)～3月15日(日) 会期中無休

## 企画展(第7～9展示室)

# 没後40年 鴨居玲展

—見えないものを描く—

主催/石川県立美術館、北國新聞社 協力/公益財団法人日動美術財団、日動画廊

後援/NHK金沢放送局、MRO北陸放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、石川テレビ放送

2月11日(水・祝)～3月15日(日) 会期中無休

没後40年を迎える本展は、「見えないものを描く」という副題のもと開催されます。これは巡回館による協議で決まったもので、これまでの回顧展とは大きく異なる視点を示しています。

鴨居玲の回顧展は、没後15年展以降、5年ごとに開催されてきました。「一期は夢よ」「私の話を聞いてくれ」「終わらない旅」「踊り候え」「静止した刻」といったこれまでの副題は、作品名や画家の言葉に由来し、鴨居玲の世界観を詩的に表現するものでした。

一方、今回の副題「見えないものを描く」は、鴨居芸術の本質を端的にあらわしています。鴨居玲の作品は、目に見える姿を描きながら、その奥にある人間の内面や感情を鋭く見つけてきたものです。そうした「見えないもの」へのまなざしこそが、鴨居玲独自の芸術を形づくっています。

仏教の絵画は仏画とも言われ、その名が示すとおり仏様を描いた絵を指します。仏教において崇拜や礼拝、教えを広めるために誕生しました。わが国では仏教そのものは飛鳥時代に伝来しましたが、仏画は残っており、日本の仏画の始まりは平安時代といわれています。

絵画の内容を、ことばで分かりやすく解説することを絵解きといい、仏画が制作されるようになったころ、文字を読める人が少なかったことから絵を使って仏教を教える必要がありました。そのため、仏画を用いた絵解きは、仏教を布教する上で重要な役目をもっていたのです。

歴史的にみると、平安時代には中国からの影響を強く受けた仏画が制作されました。特に盛んに描かれたのが曼荼羅と呼ばれる仏画で、密教における仏

本展は、これまでのように鴨居玲の世界観に身を委ねる回顧展から一歩進み、画家・鴨居玲の画業を改めて見詰め直す試みでもあります。戦後美術史の中で鴨居玲が持つ独自性を再考する、ひとつの転機となればと思います。

そのため、展示構成も画業の柱となるモチーフごとに章立てしました。一つひとつのモチーフに込めた思いと向き合ってみて頂ければと思います。また『弥縫録』挿絵93点は、このように一堂に展示されるのは初めて最後になるでしょう。言葉の背後にある思想や人間観を、鴨居玲は独自の感性で受け止め、昇華させています。こちらについても是非ご堪能ください。

の世界を表現したものです。末法思想が流行すると来迎図が描かれるようになりました。人が亡くなつた後、極楽浄土から阿弥陀如来がお迎えにくるといふ教えを仏画で表現したものです。

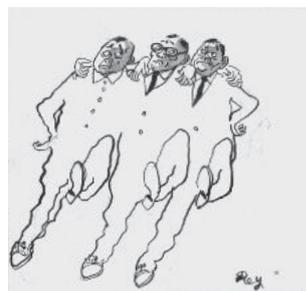
鎌倉時代になると現実を追求し、人そのものに着目するようになって、ありのままの姿が描かれるようになり、仏ではなく開祖の姿を描くようにもなりました。

室町時代は、禅宗による影響を強く受けた仏画が描かれ、頂相とよばれる祖師の肖像画が多く制作されました。

仏様の姿そのものを描いたものだけでなく、仏教をテーマにして描かれたものも仏画と呼び、仏教の絵画は思想や信仰を広める役割も担ってひろまってきました。



石川県指定文化財《両界曼荼羅図》金剛界図  
金蔵寺蔵



鴨居玲《弥縫録「一衣帯水」》

# 花の器

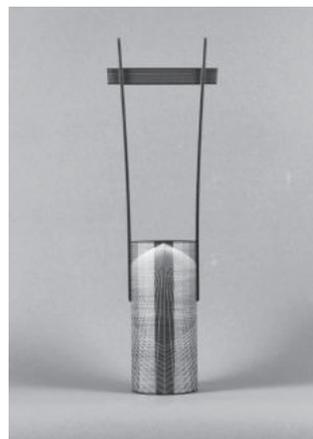
2月7日(土)~3月15日(日) 会期中無休

近現代工芸では花を飾るため器、花入、花生、花瓶、花器、水盤、薄端等の作品を展示します。

前号では薄端の作品について紹介しました。今回は花入の作品を一点紹介します。

灰外達夫《神代杉挽曲造木象嵌手付花入》。柾目の神代杉を挽曲技法で細い筒とし、手桶のような長い持ち手を付けた花生です。材とする神代杉とは、数百年から数千年も前に自然災害等によって地中に埋もれ、長い年月をかけて保存された杉の木材のことで、地中で長期間保存されることで、木材の成分が変化し、灰色や緑がかった色や、ときには黒褐色など、通常の杉には見られない深みのある色で、しっとりとした質感が特徴です。

ボディには尾州松を使い、雪吊りのような木象嵌が施されています。実用を考えて金属製の落としが



灰外達夫  
《神代杉挽曲造木象嵌手付花入》

附属しています。縁周りや高台、持ち手の両辺などには黒檀をあしらい、作品のアクセントとなっています。

灰外は昭和16(1941)年珠洲市に生まれ、中学卒業後の31年より建具の修行を始め、指物や挽曲等の技法を習得します。52年に氷見晃堂の作品に感銘を受けて木工芸の道に入りました。平成元年に日本工芸会正会員となります。日本

伝統工芸展では入選、受賞を重ね、24年重要無形文化財「木工芸」保持者に認定。用材の側面内側に鋸で挽目を入れ、材を環状に曲げて繊細な多角形の木箱を成形する、挽曲技法の作品が高い評価を受けました。

# 近代の日本画

—橋本雅邦・山元春挙・川端玉章—

2月7日(土)~3月15日(日) 会期中無休

前田育徳会の近代美術コレクションの中には、明治43(1910)年7月に行われた明治天皇の行幸と深く関わる作品が多くあります。今回は、その際に画家たちがその場で描いた合作《梅図》をご紹介します。

『明治天皇紀第十二』には、前田利為が川端玉章、荒木寛畝、福井江亭らに依頼し、天皇の前で即興の絵を描かせたことが記されています。この《梅図》は、まさにその一点です。箱書きにも「臨幸記念合作梅」とあり、中心となったのは、日本画教育の第一人者・川端玉章と、当時80歳を迎えていた老画家・荒木寛畝でした。彼らの門下生たちも制作に加わっています。

制作の順番は記録にありませんが、次のように進んだと考えられます。

まず、墨の濃淡を巧みに操る「付け立て」の名手・川

端玉章が黒く太い枝を描き始め、そこに荒木寛畝が右下から枝を伸ばすように筆を重ねます。続いて玉章が篤く信頼していた福井江亭が薄墨で背後の枝を仕上げます。寛畝の弟子で花鳥画が得意な池上秀畝が左上に細い枝で加わり、さらに玉章の子・玉雪が筆を入れます。最後に、利為の西洋画コレクションの形成に尽力した野口駿尾が、下から三本の枝を突き上げたようです。

このような席上揮毫による合作は、音楽にたとえるなら画家たちによるセッションのようなもの。それぞれの画家が互いを信頼し、呼吸を合わせて生み出した一枚として、《梅図》の魅力を味わってみてください。



川端玉章ほか《梅図》

# 橋本雅邦の襖絵

3月24日(火)～4月13日(月) 会期中無休

《四季山水図襖》は、前田家が自邸への明治天皇行幸に備え、「近代日本画の父」とも称される橋本雅邦に依頼して制作させた、障子腰、戸袋を含め30面からなる襖絵です。

橋本雅邦(1836～1908)は、江戸木挽町狩野家の邸内に、御用絵師の子として生まれ、幼少期より狩野派の画技を修練し身につけ、重文《悲母観音》で知られる狩野芳崖とともに、狩野勝川院門下の中心となります。

明治維新により、御用絵師の制度が廃されると、雅邦はそれまで築いた基盤を失い、不遇の時代を迎えます。しかし一方で、古い画手本(粉本)の踏襲を重んじる狩野派の粉本主義に、以前から疑問を抱いていた雅邦にとって、この変化は新たな表現を模索する契機ともなりました。

やがてフェノロサや岡倉天心の影響を受け、西洋美術の考え方や技法を柔軟に取り入れながら、新たな表現を切り拓き、芳崖とともに、日本画の近代化に大きな足跡を残しました。東京美術学校(現・東京藝術大学)で教鞭をとり、後に日本美術院の主幹も務めています。

本作が納められた前田侯爵邸和館は、明治38(1905)年に竣工しました。《四季山水図襖》はその頃に完成したと考えられますが、明治41(1908)年に没した雅邦は、翌々年に実現する明治天皇による観覧を知らずに世を去ったのです。

西洋画の柔らかい遠近表現を取り入れ、伝統的な画法から大きく変容した橋本雅邦の、集大成ともいえる襖絵をご堪能ください。



橋本雅邦《襖絵春景山水図》

# 優品選

2月7日(土)～3月15日(日)

日本画分野では、この時期にふさわしい黒田櫻の園《御水送り神事》10点を展示します。「お水送り神事」は、毎年3月2日に小浜市で行われる1300年も続く神事です。行法で清められた水を川へ流し、その水が10日かけて地下を通って奈良の東大寺二月堂へ届くとされ、東大寺のお水取りでその霊水がくみ上げられます。春の訪れを告げる行事を描いた墨画をご覧ください。

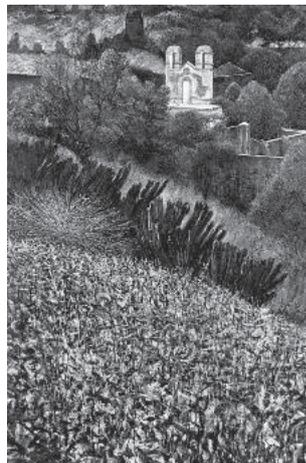
※第6展示室は、伝統九谷焼工芸展開催のため、3月4日(水)までの展示です。

油彩画分野からは、池田良則《廃園》を展示します。生い茂る緑の奥に、ひっそりと白い洋館が佇む情景が描かれています。世界各国を旅して絵を描いた池田は、「人は絶えても残る世界」をテーマに廃墟を緻密に描く作品にも取り組みました。風景に触発されることを求めて旅に出たといえます。

素描・版画分野からは、前田常作の《立山連峰》をご紹介します。富山県の雨晴海岸から望んだ雪を被った立山連峰と下部に色とりどりに咲き誇るチューリップを配した作品です。作家は出身である富山の「雄大な自然」と「やさしさ」を表現したと語り、その図を四つ連ねることで斬新なイメージを与えています。

彫刻分野から、木下繁《裸婦》をご紹介します。やや腰を曲げるようにして立つ女性像です。部分的に作られた顔や腕、表面の凹凸や欠けたようにも見える造形ながら、確かな肉体の実感があるようです。

木下繁は裸婦を多く制作し、そのフォルムの追求に努めました。同タイトルの《裸婦》(1982年)とぜひ見比べながらご覧ください。



池田良則《廃園》

## 企画展Topics

### 没後40年 鴨居玲展 第2弾 写真の中の鴨居玲

—内なるCamoy 外なるCamoy—

4月25日(土)～5月24日(日) 会期中無休

鴨居玲没後40年展の第2弾として、本展では画家・鴨居玲の「ポートレート」に焦点を当てます。鴨居玲と親交のあった人たちが、口を揃えるのは「鴨居のかつこよさ」です。そして不思議なことに、彼の話をするとき、誰もがどこか嬉しそうな表情になります。人を惹きつけてやまなかつた鴨居玲—その姿と日常を、長年にわたって撮り続けていたのが、フォトグラファー・富山栄美子氏でした。当館ではこのたび、富山氏が撮影した3,000点以上におよぶ写真をデータ化しました。写真の中の鴨居玲は、カメラを意識して少し気取ってみせたり、はにかんだ表情を浮かべたりしています。そうかと思えば、ふと自分の内面に沈み込み、虚ろな眼差しを見せる瞬間も捉えています。絵筆を手にした姿からは、思わず息をのむほどの気魄が伝わってきます。

こうした多彩な表情を前にすると、伝説的な画家となつた鴨居玲が、まるで昔からの知人のように感じられてくるから不思議です。人物画を多く描いた鴨居玲は、そこに常に自身を投影しているといわれ、「自画像の画家」とも称されます。その画家自身、そして彼を取り巻く人々や時間を写し取った数千枚の写真は、鴨居玲という作家として作品を理解するための、きわめて重要な資料です。本展では、来場者の皆さまが鴨居玲を「旧知の友」のように感じられる展示を目指し、現在鋭意準備を進めています。あわせて、当館が所蔵・受託する鴨居玲の作品も展示し、絵画と写真の両面から画家の魅力に迫ります。



《鴨居玲 ポートレート (制作中)》富山栄美子撮影

## 古美術(第2展示室)

### 優品選 —春と夏の美術—

3月24日(火)～4月13日(月) 会期中無休

まだ肌寒い時期が続きますが、第2展示室では特集展示「優品選—春と夏の美術—」を開催します。本館の所蔵作品とお預かりしている寄託作品の中から、春と夏の景物を題材とした作品全15点を紹介するものです。

《友禅花籃図》は、軸装(掛軸)ですが、絵画ではなく、さまざまな色で染められた染物です。白い椿を中心に、水仙と梅という、いずれもまだ寒い頃に春の訪れを教えてくれる草花が籃に盛られています。

暖かい季節となり、屋外の行楽に用いられるのが、《蒔絵草花丸文花見弁当》です。弁当といっても、現在のそれとは異なり、重箱に酒器と杯を備え、一式持ち運べるよう持ち手があります。漆に蒔絵で草花文が施され、行楽をいっそう華やかにしてくれます。浜辺に咲く満開の桜を描くのが、《松浜図》です。本

屏風は久しぶりの公開となります。金雲の間から松林が浮かび、海辺には帆船が並びます。馬に荷を載せて運ぶ人々の姿も描かれ、穏やかな季節を迎えた光景が広がります。

陶磁器では、《織部蔓草文向付》を紹介いたします。織部焼によくある州浜形すまがはなの向付で、左右に緑釉をかけ、中央に蔓草文が描かれています。日本のやきものだけでなく、中国明代の景德鎮窯でつくられたと思われる《古染付漁夫図皿》も展示します。

このように、春と夏の草花や自然を題材とした作品は数多く存在しています。次号でも、引き続き展示作品を紹介します。

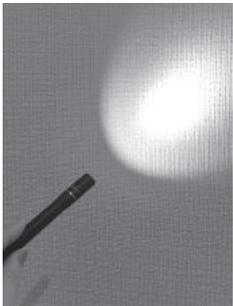


《蒔絵草花丸文花見弁当》山本春正

## 学芸室こぼれ話

作品点検や調査など業務に欠かせないのが、ちよつとした小型ライトです。強力な光を当てる訳ではないのですが、作品保護にも配慮しつつ、作品を少しの光量で照らしてみると、それまで観察していても気がつかなかった、あるいは見えていなかった部分が見事に現れてくることが多々あります。そんなときは、美術品の知られざる一面や魅力を間近で実感できる、この仕事の醍醐味を堪能しています。

ちなみに愛用しているのは、高演色かつ美術品が自然な色合いで見られる仕様のペンライト。相棒にするなら、とこだわってみた道具です。こんな感じで、わが学芸員人生も明るくピカッと照らして導いてほしいな、と思いつつ、日々重宝しています。



私が日々欠かさず更新している道具は、インデックスを用いたファイルです。必要な情報にすぐたどり着けるよう作家や作品についてまとめています。

学芸員として4月から石川県立美術館で勤務し、所蔵品や作家について業務の中で学んでいます。展示室のキャプションや美術館だよりの記事でも、いくつか作品を紹介する文章を書きました。作品について調べものをしていくと、作家の人物が伝わるような印象的な言葉に出会うことがあります。そうした記述は根拠としてだけでなく、「いつか引用したい言葉」として覚えておきたいものです。

このファイルは必要な情報にすぐアクセスできる心強い道具であり、これからも積み重ねていきたい手段の一つです。



野口 明日香(普及課学芸主任)  
「一筋の光明？」

作品点検や調査など業務に欠かせないのが、ちよつとした小型ライトです。強力な光を当てる訳ではないのですが、作品保護にも配慮しつつ、作品を少しの光量で照らしてみると、それまで観察していても気がつかなかった、あるいは見えていなかった部分が見事に現れてくることが多々あります。そんなときは、美術品の知られざる一面や魅力を間近で実感できる、この仕事の醍醐味を堪能しています。

## 第6展示室

# 第49回伝統九谷焼工芸展

3月6日(金)～3月15日(日) 会期中無休

昭和51年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼技術保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◇観覧料 一般…370円(290円)

大学生…290円(230円)

高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金。当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◇連絡先 九谷焼技術保存会事務局

能美市泉台町南十三番地

石川県九谷会館内

電話…0761-5710125

## 3月の行事予定

### ■VR体験イベント 大画面8KとVRで迫る!「名物大典太」

国宝《太刀 銘光世作(名物大典太)》の魅力や、学芸員による作品解説と共に、ご自身でのVRのコントローラー操作で拡大しながら隅々まで堪能します。

日時：3月1日(日) ①10時～10時50分 ②11時～11時50分

会場：石川県立美術館 VRシアター

料金：要コレクション展観覧料

\*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料 \*申込不要

### ■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：3月8日(日) 11時～11時30分 \*申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着) 料金：要コレクション展観覧料

\*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

### ■特別展「没後40年 鴨居玲展」ギャラリートーク

日時：3月1・8・15日(日) 13時30分～(30分程度)

会場：石川県立美術館 企画展示室

料金：要特別展観覧料 \*申込不要

久田 佳歩(普及課学芸員)  
「大切なひとこと」見失わないために

私が日々欠かさず更新している道具は、インデックスを用いたファイルです。必要な情報にすぐたどり着けるよう作家や作品についてまとめています。

学芸員として4月から石川県立美術館で勤務し、所蔵品や作家について業務の中で学んでいます。展示室のキャプションや美術館だよりの記事でも、いくつか作品を紹介する文章を書きました。作品について調べものをしていくと、作家の人物が伝わるような印象的な言葉に出会うことがあります。そうした記述は根拠としてだけでなく、「いつか引用したい言葉」として覚えておきたいものです。

このファイルは必要な情報にすぐアクセスできる心強い道具であり、これからも積み重ねていきたい手段の一つです。



# 石川県立美術館友の会 会員募集！

令和8年3月1日(日)から受付開始！

昨年同様、3月中は郵便振替のみの受付です。

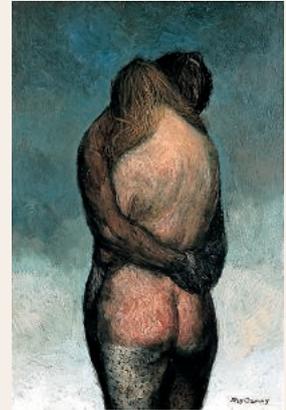
来館での入会を希望される方は、4月1日(水)以降の手続きをお願いいたします。

現会員で継続を希望される方も、改めてお申込みください。

1. 会 費 2,000円
  2. 受付期間 郵便振替：3月1日(日)より  
来 館：4月1日(水)より
  3. 入会方法 次のA、Bいずれかの方法  
A 郵便局からのお申込み ※3月1日(日)より  
\*会員証は美術館だよりとともに郵送します  
・申込方法：同封の払込取扱票に記入事項をご記入の上、郵便局(ゆうちょ銀行)で年会費を払込みください  
※払込手数料は申込者負担  
※払込取扱票の受領書は、会員証が送付されるまで大切に保管してください  
◇払込取扱票への記入事項  
・郵便振替口座：00700-7-46490  
・加入者名：石川県立美術館友の会  
・通信欄記入事項：①会員の区別(継続・新規・元) および現在の会員番号 ②年代 ③性別 ④職業 ⑤住所 ⑥氏名 ⑦電話番号  
B 直接来館してのお申込み(4月1日(水)より)  
\*即日のご入会が可能です  
・場所：総合案内にお声がけください  
・受付時間：午前9時30分～午後5時(休館日を除く)  
・申込方法：会費と入会申込書に必要事項を記入して提出ください
  4. その他  
・会員証の有効期限：  
令和8年4月1日から令和9年3月31日まで  
・会員証の対象は記名者本人のみ有効(ご家族の方との連名受付はありません)  
・一度納入された会費の返金はできません  
・会員証紛失による再発行はできません
- ### 会員の特典
- コレクション展無料(要会員証・会員本人のみ)
  - 主催企画展チケット2枚プレゼント  
※3回目以降は会員証の提示により団体割引料金
  - 同伴者の観覧料割引  
会員証の提示により、主催企画展・コレクション展観覧料が団体割引料金(同伴者2名まで)
  - 提携館の主催展覧会割引(会員本人のみ)  
石川県立歴史博物館／石川県七尾美術館  
石川県輪島漆芸美術館／石川県九谷焼美術館  
石川県能登島ガラス美術館／金沢21世紀美術館  
脇田美術館 の各館主催展覧会割引
  - 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送でお届け
  - 会員限定イベントへのご招待
  - 館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、会員本人のみ、平日のみ)

没後40年 鴨居玲展 第2弾 写真の中の鴨居玲—内なるCamoy 外なるCamoy— 企画展Topics

会期：令和8年4月25日(土)～5月24日(日) 会期中無休



鴨居玲《石の花》1979年



鴨居玲《静止した刻》1968年

※写真はいずれも富山栄美子撮影

次回の展覧会

令和8年4月19日(日)  
～6月1日(月)

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
前田家歴代の肖像画	前田利家とその時代
第3展示室	第4・6展示室
没後50年 南政善 【近現代絵画】	優品選 【近現代絵画・彫刻】
第5展示室	企画展示室
釉下彩のわざ 【近現代工芸】	写真の中の鴨居玲 —内なるCamoy 外なるCamoy— 4月25日(土)～5月24日(日)

ご利用案内

コレクション展観覧料  
一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金  
3月2日は第1月曜日より  
コレクション展観覧無料の日

開館時間  
午前9:30～午後6:00  
カフェ営業時間  
午前10:00～午後6:00

3月の休館日は  
16日(月)～23日(月)

石川県立美術館だより  
第509号(毎月発行)  
2026年3月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。



広告代理店が運営する 大人のためのデザインスクール

広告

詳しい資料の  
ご請求はこちら



01 | オンラインで好きな時間にマイペースで学べます

02 | スキルアップ・副業・趣味に活かせます



キテンスクール 〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 tel:072-668-3275 株式会社ウィット